

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第1回）
開催日時	令和5年10月19日（木）午後2時30分から午後3時40分
開催場所	田無第二庁舎2階会議室
出席者	（委員）小此木会長・新出委員・湯澤委員・竹之内委員・永野委員・戸栗委員・石川委員・鈴木（千）委員・外岡委員・鈴木（悠）委員・松原委員 （欠席）鈴木副会長・遠藤委員・西牟田委員 （事務局）木村教育長・松本部長・近藤学務課長・山崎保健給食係長・越川・福井
議題等	<議題> 1 会長及び副会長の互選等について 2 学校給食について 3 その他
会議資料の名称	1 西東京市立学校給食運営審議会委員名簿 2 西東京市立学校給食運営審議会条例 3 西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則 4 西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領 5 西東京市立学校給食の実施及び管理運営に関する規程 6 西東京市の学校給食についての概要 7 西東京市立学校給食運営審議会答申等一覧 8 今後の取組内容について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育長挨拶 ・教育長より委嘱状及び任命書交付 ・委員自己紹介 ・事務局自己紹介 ・西東京市立学校給食運営審議会の所掌事務等の確認 <p style="margin-left: 40px;">委員定数16名、出席委員11名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認</p> <p>議題1 会長及び副会長の互選等について</p> <p>(1) 会長及び副会長互選</p> <p style="margin-left: 40px;">西東京市立学校給食運営審議会条例第5条第2項に基づき、委員より会長及び副会長を選出。</p> <p style="margin-left: 40px;">会長については、事務局より学識経験者の小此木委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。</p> <p style="margin-left: 40px;">副会長については、会長より学校長代表の鈴木委員の推薦を受け、出席委員全員の同意により選出された。</p> <p>(2) 西東京市立学校給食運営審議会会議録について</p> <p style="margin-left: 40px;">西東京市立学校給食運営審議会条例施行規則第4条及び西東京市市民参加条例施</p>	

行規則第4条に基づき、会議録の作成、会議録の作成方法について確認。

出席委員全員の同意により、発言者の発言内容ごとの要点記録とすることとした。

(3) 西東京市立学校給食運営審議会の傍聴について

西東京市立学校給食運営審議会傍聴要領第2の規定により、会議会場の広さ等を勘案し、出席委員全員の同意により傍聴人の定員を5名程度と決定した。

議題2 学校給食について

(1) 西東京市の学校給食の概要

事務局より、資料6学校給食についての概要について説明を行った。

○委員 給食調理の委託校と直営校の差を詳しく教えてほしい。直営校が減っているのはなぜか。

○事務局 市の職員数の定員適正化計画があり、調理員などの技能労務職については、人数を縮小している状況である。市の調理員が年々少なくなっているため、委託校を増やしている。

○委員 コストの問題と食材購入における利点から、主に学校給食や病院などで調理を委託するような流れが全国的に進んでいる。西東京市の食材調達方法とは違うかもしれないが、一般的に、委託にすると献立を立てる人と調理する人を別にでき、食材を一括で購入し効率良く安く手に入れることができる。

○事務局 親子給食実施校は作業時間が長く、早朝からの出勤になる。市の職員では勤務時間が決まっていて、早朝や夜間の作業ができない。委託にすると勤務時間も柔軟に調整できて、人数も余裕をもって配置できる。

(2) 今後の取組内容について

事務局より、資料8今後の取組（給食費の公会計化、給食費の改定、及び地場農産物の使用率向上等）について説明を行った。

○委員 令和4・5年度の食材費補助について、補助額は一食単価に含まれるのか。

○事務局 一食単価が上がっているが、保護者負担額は例年と変えず、値上がりした分を補助している。

○会長 都内で給食費の公会計化を実施している自治体はあるのか。

○事務局 多摩26市で実施している自治体がある。公会計化しているのはセンター調理方式の自治体が多いが、西東京市と同様に自校式でも公会計を導入している自治体もある。ただ、全国的にみると、東京都内はまだ進んでいない状況であるため、文部科学省から公会計化を進めるように要請がきている。大量契約・大量納入がしやすいということもあり、市で大きな給食センターをもっている自治体は、元から公会計を導入していると聞いている。

○委員 地場農産物について、市で目標にしている調達率があれば教えてほしい。食育の観点から、具体的に市としてはどういった意味で上げていきたいか、ねらいがあれば教えてほしい。

○事務局 市内産の農産物を増やしていくような取組を続けているが、農家の減少や農地の縮小により、新規登録の農家が増えても、その分やめてしまう農家もあり、登録農家数の現状維持が精一杯の現状である。市内産だけでなく、地産地消の取組として、多摩地区で収穫されたものを地場産とするのであれば、使用率の増加が見込まれる。自治体によっては農協との連携によって、農家との個別の納入ではなく、エリアごとの取組を行っている自治体もあるので、西東京市として地場産の利用率促進を考えていくには、西東京市産にとらわれずに、近隣地区も含めた取り組みも考えていかなければならない。

○委員 市内の農家に地場産の青果物を頼んでも、その年の気候によって出来が悪くて納入できずキャンセルされてしまう場合が多い。このような場合は、八百屋さんに発注し直すようにしている。市内産を使用したい気持ちが農家も栄養士もあるが、現状難しい。JAが取りまとめてくれたら使用率は上がるのかもしれない。

○委員 時期にもよるが、市内産の方が金額が高い場合もある。

○委員 西東京市や多摩地域の特産を、より納入するようにしていくのが良いと思う。一般的な野菜であれば、規格や地元農家との対応が厳しいこともあると思うので、青果物全体の数値を上げるというよりは、地場産で特徴のあるものを、より使っていくというようなメリハリも必要だと思う。

○委員 西東京市の特徴として、市内に2つの線路があることで当日納入が難しい、中小農家が多く給食調理に使用する量を確保できない、というのが大きな理由となっているのかもしれない。

○事務局 青果物の年間の購入金額に占める地場産の購入金額は、親子校で令和2年度は7.56%だったが、令和4年度は9.19%と増加している。単独校においても令和2年度は6.86%だったが、令和4年度は9.64%と増加している。

○委員 米は市内農家が小規模なので、市内産を使うのは難しいと思う。米を給食で使用することは多いと思うので、西東京市周辺から購入するようにしていく等考えていることはあるか。

○事務局 米は西東京市内のお米屋さんを通して、各校ごとに購入している。東京都の学校給食会でも米の取り扱いがあるが、登録しているお米屋さんから購入することが多いと認識している。農家を限定してしまうと、万が一不作となったときの対応が難しい。また、現在は物資納入業者の登録制度を採用しているが、米の産地を限定してしまうと、今まで登録していた業者から購入できなくなるという懸念もある。

議題3 その他

○会長 次回の予定を報告してほしい。

○事務局 次回は、1月～2月に親子給食の見学と試食を実施したいと思っている。詳細は別途通知する。

閉会

○会長 本日の会議を散会する。